

264273

392

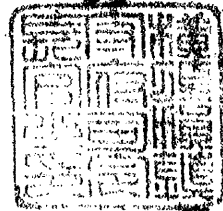
二〇二四

大正三年十月十五日

横須賀鎮守府司令長官

伊地知季珍

海軍軍令部長島村速雄殿



戰時日誌提出ノ件
戰時日誌 第參回
右提出ノ

壹冊

(終)

0003

戰時日誌

横須賀鎮守府

大正三年十月一日 木曜 晴

海軍大臣司令部長官宛電報

十直早前七時二十分着

十月一日附防備部隊編制ニ関シ左記要領ノ通改

定セラル

- 一 東京海灣ニ於横須賀軍港佐世保軍港鎮海軍
- 港基隆港、旅順港ニ於大連灣ノ防備ヲ撤セラル
- 二 特設砲艦ノ配備ヲ止メラル
- 三 特設艦艇ヲ配備スルニキ地点中打狗港ヲ削リ基

0004

隆港ヲ加ヘラル
四 基隆防備隊ヲ廢セラル

海軍大臣司令官宛電報 關係各部長ニ傳達ス

十月一日午前九時三十分發同九時十分着

本日附小樽丸ノ役務所管所屬ヲ解ク

十月一日午前八時三十分着 同九時十分着

本日附玄海丸ノ役務所管所屬ヲ解ク

海軍次官司令官宛電報 十月一日午前六時發同七時十分着

本日附役務及所管所屬ヲ解ケタル汽船小樽丸玄

海丸ハ至急解傭ニ差支ナキ復旧工事ヲ施シ工事

終了ノ上ハ其ノ旨報告セラルシ命ニ依リ

0005

右工廠港務部 經理部 人事部 爲送付ス

海軍大臣 局長 宛電報

閣僚各部長 傳達ス

十月一日午前六時發 同七時着

本日附叢雲、夕霧、山彦 警備艦、役務ヲ兼

ホシメタル所之ヲ解ク

海軍大臣 局長 宛電報

閣僚各部長 傳達ス

十月一日午前六時發 同七時着

戦列部隊ノ編制改定ノ件 (本支有異)

鎮守村命令左ノ如シ

横鎮戦第三號

0006

横須賀鎮守府命令

大正三年十月一日
於横須賀鎮守府

一 横須賀鎮守府に於ける大正三年度海軍我時編

制の一部中本日附より東京湾口及横須賀

軍港防備實施を撤去せらる

二 大正三年度横須賀鎮守府防禦計畫の一部

實施に關する横須賀機密第六五〇號横須賀

鎮守府命令中湾口防禦指揮官及司令部

部を設置湾口及港口防備並に陸上警衛

ノ實施を取止ム

三 防備隊司令官所屬艇艦及陸上設備ノ防備

ヲ復旧せしめ海兵團長ハ警衛隊ノ編制ヲ

解久シ

四 當分ノ内左記日割ヨリ第一艇隊及第二艇

0007

隊ヲシテ横濱港警備任務ニ服セシム

自十月一日

第二艦隊ノ内ニ隻充

至十月十五日

第一艦隊ノ内ニ隻充

自十月十六日

至十月三十日

横濱賀鎮守府司令長官伊地知季珍

武蔵 午前四時横濱賀ニ向ケ釧路發

高崎 午前七時横濱賀ニ向ケ吳發

玄海 昨夜戸崎ニ假泊本日未明通峽六連沖ニ達
セシモ風波為メ航海困難海峡西口假泊風平次第

發隊豫定

一長門福浦發艦土時三十分着

鴻島午前十時十分横濱港ニ向ケ出港 弟艇隊ト交代

第二艇隊ト交代第六十八號第七十一號水雷艇午後〇時
横濱港ニ向ケ横濱發一時五十分入港

軍令部長山屋司令官宛電報轉電

十月一日午前九時三十分着 同上時着

大海令第二八號 命令

一第一艦隊ハ本邦沿岸ノ巡航警戒ニ任シ特令ナシ
ハ第一艦隊及第一水雷艦隊ハ本州南岸ニ第三
戦隊ハ九州方面ニ在リ上海航路ノ警戒ニ任シ

0009

ツツ教育訓練ニ従事スヘシ

二 第二艦隊ハ依然膠州灣ニ對スル封鎖ヲ強行シ陸軍ト協同シテ青島港ノ攻畧ニ従事スヘシ

三 第三艦隊ハ海峽香港間ノ巡航警戒ニ任スヘシ

四 第一及第二南遣枝隊ノ行動ニ関シテハ海軍軍令部長ヲシテ之ヲ指示セシム

五 特別南遣枝隊ハ英國支那艦隊ト協同シテ作戦ニ従事スヘシ

六 遣米枝隊ハ America York 沿岸ニ於ケル帝國及友邦ノ通商保護ニ任スヘシ

大正三年十月一日 奉勅 軍令部長

經理局長ヨリ參謀長宛電報

十時五十分東京發 同日東京着

0010

本日左ノ官房魏發布アリタリ
宣戦ノ旨ヲ九月三十日ニ至ル迄ノ間ニ於テ鎮守府司令長官ノ命ニ依リ戦時増俸差ハ増給ヲ受ケル各
部ヲ之ヲ受クル各部ニ特ニ配置セラルル軍人軍
属ニ當テ増俸差ハ増給ヲ支給スルコトヲ得

司令長官ヲ海軍大臣軍令部長ハ電話報知左ノ如シ
横濱港警備ハ當分ノ内左ノ通定ム
本日より十五日迄第二艇隊ノ内二隻 十六日より三十日
迄第一艇隊ノ内二隻トス

本日第二艇隊ヲ兼警備艇ト定メ海軍大臣ニ報告ス
(大正三年九月一日官房核務第七五号海軍大臣訓令ニ據ル)

0011

要港部司令官司令長官宛電報 十月五日午後六時五分
小樽丸二日大湊發五日後横濱軍港到着、豫定

艦政本部鎮守府宛電報

十月五日午後十時五分 同日午後一時五分着

八月艦本機密第八三七號ヲ廢止之馬公要港部旅
須要港部ノ整備艦艇第二艦隊南進支隊、各艦
艇及特設船舶ニ要スル行動需品ハ豫算外トシ其、
他ハ總ノ豫算内トシ別途配付ス、艦政二六八

軍令部宛馬山屋司令官宛電報轉送

十月五日午後一時五分 同日午後九時五分着

一一一號

America. South. Lima 領事ヲ左、電報アリ

0012

Teipyig = Peru 北端
Jobos de abruca = 戴炭
三百午迄二時南方二向
三十日荒木發慮

一 Dartmouth (5501-) Chatham (54001-) Weymouth (52501-)

一 Konigsberg 擊院二任

二 Ocean (197501-) Goliatk = 東印度艦隊二臨時編入

三 Seifsture 其他發送二從事中

四 1908 十月 = 11 Monlaba 着 Bombay = 歸北策

加奈陀 樺山 來電

三 輝定 軍艦 三 五 日 Valparaiso = 十九日 Valparaiso 中

通道 獨國 軍艦 Dresden 十 十 十

軍部 波長 山 屋 司 令 官 免 電 報 轉 電
十 五 年 八 月 廿 四 日 廿 五 日 廿 六 日

0013

二二號
第二南遣枝隊一日係保發十日Palaceに着、被建

湾は防線指揮官ヨリノ報告左ノ如シ

横隊機密第九號 湾は防線部隊命令

(右命原機密第九號横隊機密命令内防備隊ニ
属スル事項ト其由案ノ向ニシテ本又之者異ス)

第一艦隊司令官ヨリ山屋司令官宛電報 轉電

十月一日午後七時五分迄 同十時甲方着

本日附其隊ハ本職ノ指揮下ヲ脱シ獨立トナル貴
官ハ第一南遣支隊司令官ニ乗替及艦隊附ハ同隊
乗替トセリ

第三戰隊司令官より第一艦隊司令官長官 軍令部長 海軍大臣宛
電報 轉電 十月廿

第一南進支隊第二回報告

支隊小笠原群島出發以來何等異状あり一四洋
中載炭ヲ行ヒ二十一日午前 MacIsland 島カサリン島ノ
南方海面ニ達シ駆逐隊ヲ先發シテ同夜半 J. 島
港外ヲ偵察シテ敵ヲ發見セ直ニ之ヲ擊沈
スキヲ命ジ本隊ハ翌二十九日早朝 J. 島 (不明) ヲ
畫シ敵ノ艦隊在泊セ之ヲ擊滅スルノ意圖ヲ以テ午
後増速シ又給炭船ハ能ク速力ヲ増シ
後ヨリ續行セシメタリトラス 島 附近ヨリ南西風
強吹テ豪雨頻リニ至リ時々恐人ヲ辨セテアリ持ニ多
数ノ暗礁踏ニ横ハリ困難ナリシカ無事二十九日朝

0015

Japan 南東水道ニ達スルヲ得ナリ是ヨリ先(…)ヨリノ報告ニ依ルハ港内ニハ汽艇ノ外敵ノ船艇ナキヲ知ル敵状偵察注ニ陸上軍事的設備ヲ破壊ノ目的ヲ以テ枝隊ハ港口ニ近ク漂泊シ溪間副長南郷中佐ヲ司令トスル聯合陸戦隊ヲヤホウルニ揚陸セリ當時陸戦隊ノ得タル敵情注報告ヲ綜合スルハ存如シ一、島内ニ軍事的設備更ニナシ
 二、無線電信ノ設備ヲ認メス
 三、石炭ハ英國商船用ノモノ三十噸アルノミ獨炭庫ハ空虚ナリ
 四、近來獨國軍艦ノ来リシコトナシ但レ獨(…)ノ出入時々アリ
 五、拘禁セラル日本一人アリ

六、英國商船 *Jandana* 抑留セズアリ
七、官吏島民ハ徒順ニシテ 何等抵抗カシキ振舞ヲ
認メス陸戦隊(以下混
係ノ風)

前日續キ 十月二十日午後八時三十分著

陸戦隊ハ本職ノ命令ニ基キ(左ノ名隊) 處置セリ

一、政廳及島内各部取調 上島司ヲシテ 歸順ノ意

ヲ表セシメシル 上獨國軍艦ノ南方海面ニ出沒スル

限リハ本島ハ帝國ノ勢力範圍ニ置クノ必要アルヲ

以テ一時的占領ヲナス旨ヲ聲名ニ參考官文書

及官金約五千ヨリクヲ押收シ 官金ハ島司ノ後領

証ヲ徴シテ之ヲ返付セリ

二、獨國人警察官ノ下、十五名、土人巡防隊アリ共

0017

小銃五十五挺 彈藥若干 (原混信ヲ不測)

續キ

十月四日午前四時二十三分著 (此處ハ午前引張三十分著ト) 兩度送信シ来リセリナリ
拳銃海圖其他ゲフ。八行土人用火藥十六箱ヲ

押收ス

三、炭用多カラス 鐵製ライタール一隻ヲ爆破ニ官用

短艇三隻中二隻ヲ燒棄ス

四、私有物品ナキヲ知ル 強テ軍需品ト認メキモノハ *January*

會社所有門扉四十樞アルノミナリシカ島民ノ燃料

ニ供スヘキモノト認メ其ノ半部ヲ棄却シ殘部其

ノ儘棄却セリ

五、岡山縣人塚村兼光拘禁セラル居ルヲ以テ之ヲ救

助シ艦艦ニ收容ス

0018

六、状況（一）ノ為ノ島司及英國汽船

續キ十月五日午後九時十分着

……ヲ旗艦ニ引致シ陸戦隊ハ以上ノ作業ヲ終リ彼
我共ニ何等別業ナク無事陸上ヨリ撤退歸艦セリ
島司及英船長ハ尋問ノ上此ヲ放還セリ
英國汽船臨檢ノ結果左ノ如シ

Compass *Spencer* *Burns* *Phillips* 會社汽船 *Oriskany* 六百九
十九噸ニシテ同航ハ昨年十二月……ヨリ出發シ本
年一月當地着コトヲ貿易ノ為メ来リシモノニシテ
缶ヲ開戦ノ……ヲ知ラスシテ入港……其ノ儘
抑留……ナリ船員ハ……英國人ニシテ獨國人一
人モナシ以上ノ事業中……八月十九日再ヒ

獨國戰ヲ知り其儘偵察中... 判明セシテ
 以テ明日之ヲ... スルコトニ決シ但同船ハ石炭百
 五十噸ヲ有シ陸上ヨリ三十噸ヲ積込... 尚
 Sydney 直航ニ不足ニシテ途中安全ナル寄泊地
 キヲ以テ船長懇望ニヨリ我カ給炭船ヲ約三千
 噸ヲ分配セシムル若同船長ノ談ニヨレハ當方面來
 著以來獨國軍艦ニ會セザルモ土人ノ言ニヨレハ約二週
 間前獨國軍艦ニ隻及十隻... 島ニアリタリト
 又... 島... 陸揚シマアリト云フ島司旗
 艦ニ引致後諸般ノ情況ニ存尋ネタルモ極力...
 ニ何等得テ所ナシ拘禁セザル塚村ハ神戸西郷
 町新在家獨國人ニラケル高ノ傭人ニシテ... 高

買上長ノ命ヲ受テ西ノ宮ヨリ石炭半噸ヲ搭載
 シ八月四日青島港ニ向フト稱シ出發セル獨國運
 送船アリ號ニ業船シ八月十日頃南方ノ島ニ於テ
Shankorst *Gneisenman* 及三煙突ノ一獨國軍
 船ニ石炭糧食ヲ給シ………*Jack* *Jo* *マシゴ* *ヲ*
 經テ八月三十日當 *Galaxy* 著直ニ陸上ニ拘引セラレ
 今日ニ至リタルモノニシテ當人ハ………ヲ覺悟シ居
 リレカ程ナク當人ハ最近便ニ依リ本邦ニ歸還セ
 シメントス 枝隊今日ノ所山風ヲ *Galaxy* 内港東側
 ……セシメタリ南緯ノ艦艇ヲ率テ沖合ヲ徐航
 シ明朝再 *Galaxy* 至リ給炭シ………絶ヘス疑ハレ
 キ諸島ヲ逃脱シタル後 *Pomape* 島方面ニ向ハント
 ス當隊本邦出發後風波又ハ炎熱ノ者多ク少ク

困難ニ遭遇スヘシト思考セタルニ實際ハニ於テハ差
シタルコトナク茲ニ全隊何等支障ナク
面ニ於ケル第一次行動ノ進捗ヲ報告ニ得ル本
職ノ最モ欣喜スル所ナリ隊員一同志氣益々振フ
ニ對シ一層奮勵努力セシメテ隊想ニツマリ
右報告ス

十月二十日午後發電

0022

十月二日 金曜 晴

系謀長より第一南進支隊司令官宛電報

貴隊用給炭船彼南丸八十月廿日神奈川丸鳥取
丸八十月十日頃出勤準備完成ノ後是ナリ各船無
線電信機ヲ有ニ供給炭五千乃至六千噸本船用
炭七千乃至八千海里航續距離ニ對スル分ヲ搭載ス
右運送船發送基点ヲ示サシ

香取より本館宛電報 十月廿午前二時十五分着

本艦十月一日正午ノ位置 北緯三十三度三十二分
東經百五十八度三十九分 針路北五十五度西達

0023

力六哩

司令長官海軍大臣軍令部長へ電報報告左ノ如シ

東京湾口及横須賀軍港海陸ノ防備ハ一日午後全部

撤去ニ終ル

右報告ス

小樽九午前九時横須賀軍港ニ向テ大湊發

玄海九午前八時佐世保着

午後四時逐送船馬取丸入港

軍令部長山本司令官宛電報轉送

十月九午前九時東京軍令部同十時東京着

0024

二三號

一日アラスカ發電 Yokohama 總督公電 Selamkorat

Freisemann 九月二十日 石炭運搬船二隻ヲ伴ヒ

Society 船 首在沖ニ現レ 俾國砲船 撃

沈ニ市街ノ大半ヲ砲撃破壊ニ夕刻北東ニ向ヒ

去ル

壞

軍令部長ヲ山屋司令官宛電報轉電 十月五日午後五時五分 同日七時五分着

二四號

二日荒水發電

一獨國官吏ノ言ニ依レ九月十五日獨國軍艦ニ假裝

巡洋艦多數ノ運送船 Marshall 船ノヲラトセ

(Note?)ニアリタリ

0025

二九月男 Joice, Caroline Jo. Kwaie Jo. 在リタリ
参考ノ為メ

軍令部長 山屋司令官宛電報 轉達 十月廿五日發 同日解平の着

大海令第三十號

第一南遣枝隊司令官山屋他人ニ訓令

其ノ官ハ Marshall Jo. 東 Caroline Jo. 方面ニ索敵
行動中其任務遂行ヲ有効ナラシムル為速ニ Jaluit
「カカ」 Strong 島及 Pomape Jo. 其他必要地点ヲ占
領シ之ニ身備兵ヲ置クニ同身備兵ハ特核ヲ見テ
内地ヲ占領ヲ派遣交代セシムル豫定ナリ

大正三年十月

軍令部長 奉

0026

軍令部長山屋司令官宛電報 轉電

十月二十日午後七時五分發、同九時著

左、件通牒不

大海令第三十一號

第二南遣枝隊司令官松村龍雄ニ訓令

一、英國濠洲船隊、我々第一南遣枝隊ト協同索敵

ノ為、ラバウル (Rabaul) ヲ出發セントスルノ報アリ、從テ

同方面ニ進出スルニ及ク、機宜第一南遣枝隊ト策應

スル、處置ヲ執ルヘシ

二、英國支那船隊ト策應スル為要スレハ、第二南遣枝隊

ノ索敵範圍ヲ Celebes 海ニ擴張シ、且 Sandakan 等

差、Darnell 等ヲ經テ通信連絡ノ道ヲ講スヘシ、同方

面ニ英國軍艦 Cadmus, Clio 及駆逐艦五隻發艦

0027

中ニシテ Philippine 島の東方海面ニハ、エロプレスヲラブレ
シヤル出動シアリ尚日進ハ當方 Makassar Strait 方
面ノ警戒ニ任スル者ナリ

三、第二南進隊ハ便宜 Palao 島及西 Caroline 島
ノ西地ヲ占領シ付備スヲ置クハ同守備兵ハ時
様ヲ見テ本國ヨリ兵員ヲ派遣シ交代セシムルヲ定ナリ

大正三年十月 軍令部長 奉

海軍軍様第一二九號ニテ 對獨裁時編制實施必得書中
改正ノ件 受領

大海軍機密第八號ヲ以テ軍令部長ヨリ司令官宛通牒ス
ル也

0028

大海令第三號
大海令第五號

各隊指揮官ニ命令
旅員要港部司令官訓令

(本二省署)
(本文省署)

第一南遣校隊第二回報告ノ續 十月廿八日午後八時五分著
十月一日記事参照)

0029

十月三日 土曜 晴

海軍大臣司令部長官宛訓令左ノ如シ

官房様密第一〇二六號 大正三年十月二日

若宮丸ニ飛行機増加ノ件訓令 (本支省界)

小樽丸風波、為午正五時陸中山田ニ避泊

玄海丸午前九時檣頭噴高々依母係發積石甲嶮便業者二十八名

軍艦肥前午前七時十五分入港

高崎丸午前七時五分入港

白鷹丸午前九時入港

0030

軍令部長より山屋司令官宛電報 轉電

十月三日午後二時五分發、三時十分着

二五號

白山梨發電

敵主力ノ新情報ニ依リ英國濠洲船隊ハ引込

ニ向テ引込ス

二六號

荒木宛發電

Australian 官憲ヨリ電報電信船隊ニ無線電信
ヲ裝載シ船名電信符海軍用ニシテ(一)商業用ニ
(MNH)トスル

軍令部長より山屋司令官宛電報 轉電

十月三日午後四時五分發、同四時三十分着

0031

大海機密第九三號

「ウオトセ」(Wotse)島ヲ偵察セバ速ニ結果ヲ知弁シタシ

山屋司令官ヲ海軍大臣軍令部長第一船隊司令官長官宛電報轉電

第一南遣枝隊第三回報告 十月十日午後發電

枝隊ハ三十日朝 Jelun 平ニ歸リ漂白給炭シタル後同

夜出發十月十日 Jekile 島及 Jyppoa (ソコ) 島方面

ノ索敵ヲナセシカ何等異状ヲ認メス明二日朝

Jelun 平ニ到リ再ニ炭水補充ノ上午後同方面針

出發五日レホエヨヲ經テ七日 Panapa 島ニ出現シ同方面

ニ於ケル(マ)ニ並軍事的設備ノ破壊ヲ行ハントス

爾後ノ行動ニ就テハ未ク決定弁ルモ Jank 島ニ到リ

同島ヲ枝隊ノ根據地ト為ス(マ)ナリ

0032

ベセント也艦隊ト未通信聯合(一)云

目下 Marshall 島方面ハ西(一)風雨ニ遭リ下屢アリ又不足定ノ潮流アリ暗礁ノ位置確實ナラズ加フルニ天候(以下船馬ヲ送り次第又送信ス)

十月五日午後七時三十分着

天測出来ス航海ノ最モ注意ヲ要スル時却ナリ給炭船ハ作業進捗上双方ヨリ同時ニ載炭スルノ方法ヲ執ルヲ以テ(一)本邦ニ歸航セシムル譯ニ行カス速力遅緩ニシテ枝隊ノ行動ヲ束縛スル下頗ル甚シキモ巴ムナク Sydney 迄随伴スヘシ

解放セル英國高船ハ三十日夕暮事 Sydney に向テ

Palmit ヲ出發セリ

右ノ件報告ス

0033

司令長官宛左記訓令受領其旨軍令部ニ電報ス

大海令第三二號 横須賀鎮守社司令長官訓令 (本支省署)

軍令部長ヨリ司令長官宛大海機密第九二號ヲ以テ別紙 (大海令第三二號寫) 通牒受領

大海令第三三號 第一南遣枝隊司令官訓令 (本支省署)

大海令第三二號 第二南遣枝隊司令官訓令 (本支省署)

0034

十月四日 日曜 晴

軍令部長ヨリ糸謀長宛電報 十月四日午後一時五分發同前十分着
鳥取丸ハ臨時肥前ニ同行セシメラルル事トナル等工
事ヲ急カレタシ

右鳥取丸肥前工廠其他関係各部ニ通知ス

司令長官ヨリ彼南丸監督官、香取艦長ニ訓令左ノ如シ

横領様密第八三八號ノ四

村上彼南丸監督官ニ訓令

大正三年十月四日
於横領様密第八三八號

一其ノ船ハ来ル十月七日朝出發先ツサイハシ島
ニ至リ同地ニ在ル軍艦香取ニ給炭スヘシ

0035

二前項ノ給炭了ラハ山屋第一南遣枝隊司令
官ノ指示スル地点ニ到リ同隊ノ給炭ニ従事
スヘシ

横濱賀領守社司人長官伊地知季珍

横濱核密第八四六号

近藤香取艦長ニ訓令(無線電信)

大正四年十月四日

一其ノ艦ハ第一南遣枝隊ト通信聯絡ニ任スルト

同時ニサイパン(Saipan)島ヲ占領シ之ニ守備

兵(約一箇小隊)ヲ置クヘシ

二第一南遣枝隊用給炭船彼南丸ハ来ル十月

廿日朝横濱賀領發南航ノ途次サイパン島ニ寄

港ニ其ノ艦ニ給炭セシム

0036

三水令ニ對スル行動ヲ豫定セハ其旨報告スヘシ
横園賀鎮守府司令官伊地知季珍

小樽九午前六時甲分陸中山田發横園賀ニ向テ
駒橋第八第九潜水艇午前九時甲分入港

山屋司令官ヲ陸全部長宛電報轉電 十月廿五日土曜二十分着

第一南遣技隊第四回報告

技隊ハ上命ニ基キ今十月三日 Marshall 島首廳
所在地 *Palmyra* 二聯合陸隊ヲ揚陸シタル處何等
抵抗ナク此ヲ占領セシ Marshall 島ハ事實帝國
ノ権力内ニ歸シタルヲ以テ群島ヲ占領シタル旨本
職ノ名ニ於テ全島ニ布告セリ

0037

右海軍大臣へ傳へられし
軍令部長へ山屋司令官ヨリ
枝隊ハ今日ヨリ口ニ未占領ノ目的ヲ以テ Jaluit 發
五百同地著ノ據定

軍令部長ヨリ山屋司令官宛電報轉電

十月四日午後一時四十分發 同二時三十分着

二七號

在英武官來電九月三十日獨逸巡洋艦一隻給炭
船ヲ伴ヒ Samarang, Jutunda 2 沖ニ在リテ情報
ニ依リ英國軍令部ハ同方向ヲ索敵スル旨英國
海軍艦隊ニ訓令セリ

0038

海軍大臣司令部長官宛電報
十月四日午前九時五分同十時十五分着
本日附武藏後務ヲ解也第一豫備艦ト是ヲ特
別是負ヲ置ク

第一南遣後第二回報告續キ十月四日午後四時三十分着
十月一日記事参照

0039

十月五日 月曜 晴

海軍大臣ヲ司令長官宛訓令左ノ如シ

官房機密第一〇三五號

サイパン島外一ヶ所特設無線電信所便設ノ件 (本署)

官房機密第一〇三六號

サイパン及ヤル卜特設無線電信所便設ノ件 (本署)

海軍大臣ヲ司令長官宛訓令

官房機密第一〇四三號

軍艦肥前ニ給炭艀ヲ臨時附屬セシムル件 (本署)

右訓令ニ基キ司令長官ヲ島取丸監督官ヲ訓令左ノ如シ

0040

横領棧寮第八四九號

田中島取丸監督官訓令

大正三年十月三日
於横領棧寮

一、其ノ船ハ臨時遣米枝隊用給炭艀トシテ米凡
十月七日中ニ諸準備ヲ整ヘ八日當地發北
米ニ卦久キ軍艦肥前ニ「エスカイモルト」迄隨
伴スヘシ

二、「エスカイモルト」到着ノ上遣米枝隊ニ給炭シ

終ラハ速ニ横領賀軍港ニ帰航スヘシ

横領棧寮司長官田中知季珍

工廠長注文庫名目ヨリノ報告左ノ如シ

横領棧寮第五六二號

大正三年十月三日

工廠長

0041

司令長官宛

弾薬供給状況報告 九月末日調

供給月日供給先品名員数記

九月九日重砲隊 六吋美砲 一挺 徹甲榴弾 三六六
 以下左
 本年九月十日艦本第四十五号照會より
 全数

同 鍛鋼榴弾 一六三四

同 常装薬包 二〇〇〇

九月五日河内 六吋砲 常装 薬包 四〇〇〇

四吋七九 常装 薬包 四〇〇〇

三吋砲 常装 薬包 四〇〇〇

短三吋砲 常装 薬包 二六七

三吋砲 常装 薬包 三三二 分一

叢雲 常装 薬包 六六

九月九日白鷹 常装 薬包 四六

残 三分一

九月三日香雉
 香銀銅播碎葉包 一五二分ノ一
 香銀銅揚碎葉包 三二ノ一

横領文様密第八號ノ七

大正三年十月三日

文庫主管

司令長官宛

出師準備兵備品供給ノ件

月日供給先品

名称数量訖

事

秘密圖書冊 九

水路軍械海圖枚 九五

水路特報冊 一一

普通海圖枚 六九七

水路誌類冊 二一

十月三日運送船彼南丸

0043

消耗品圖誌	冊枚	三
軍事教育圖書	冊	三

在橫濱港第二艦隊司令官長官宛電報

十月五日午後三時十五分發 同三時三十分着

今朝入港セル「アリ」丸船員談ヲ綜合スルニ「バガ」
及「サイパン」ハ馬尼刺ヨリ在南洋獨國艦隊ニ對スル
供給中継地ナルヲ疑ナキカ如シ要細書面ヲ報告ス

山屋流一南遣枝隊司令官ヲ軍令部長海軍大臣宛電報轉電

十月五日午前五時四十五分着

枝隊ハ豫報ノ如ク「サイパン」ヲ經「Davao」ニ向テ
索敵ヲ為シ「二日」夜「Davao」ヲ發航行中三日朝「ナモリ」トシ

0044

附近に於て大海令第三。艦ヲ受領直ニ反航淺間
ヲシテ給炭艦ヲ護衛後ヨリ續航セシメタリ他ノ諸
艦ハ速力ヲ増シ午後二時 *Dark* 着直ニ鞍馬砲術
長海軍少佐宮坂助治郎ヲ司令トスル鞍馬砲術
合陸戦隊（銃隊ニ小隊並附屬部隊）ヲ編制シ山風ヲ
港内ニ入レ其掩護下ニ揚陸何等抵抗ナシ *Woodall* 命
首廳所在地ヲ占領シ 陸戦隊司令ハ本職 命
ニ基キ午後二時五十二分島廳旗竿ニ軍艦旗ヲ揚場
シ確實ニ該島ヲ占領スル為我隊備隊ヲ置キ軍政
ヲ布クコトヲ宣言シ我占領軍推内維持ノ必要上島
（以下香取送信機故障為不明）

以下午後六時四十八分着

司令ヲ退廳セシメ遠江丸ヲ本邦ニ回送スルコトセリ一家

0045

族婦人外小兒二以上獨國人、僕土人一同伴ヲ許ス。島
司次席者ヨリ守備隊長ノ命ヲ受ケ群島統治ノ事
務ヲ勤掌スヘク宣誓ヲ徴シ、其他諸般ノ安寧秩序
ヲ正シ更ニ本職ノ名義ヲ以テヤルルトハ本日ヲ以テ事實
帝國軍ノ推内ニ歸シ、ル旨ヲ同群島ニ布告ヲ了シ
此間鞍馬分隊長海軍大尉日比野正治ノ率エル銃隊
一小隊（麻式城砲一門）附屬部隊並三イシケ装砲艇一傳
馬艇ヲ附ス。ヨリナル守備隊（隊長以下士官四名下士卒
六十三名軍需品三ヶ月分携行）ヲ派遣シ午後六時十
八分守備隊ハ占領陸戦隊ト交代シ島廳上日章旗ヲ
操揚シ守備隊ノ配備其ノ緒ニ就キ、ルヲ見テ陸戦隊
ハ陸上ヲ撤シ無事帰艦セリ
島内ノ土人何レモ従順ニシテ帰服シ居リ、後テ以上ノ措

0046

置ハ何等滯滞無ク極メテ迅速且静肅ニ進捗スルヲ得
タリ
此如キ短時間ニ於テ一舉ニ Marshall Is. ヲ帝國
軍權内ニ收メ得タル偏ニ御後威ニ依ルモノニテ感
激ニ堪ヘタル所ナリ
右報告ス

十月三日 山屋弟南遣枝隊司令官

軍令部長ヨリ山屋司令官宛電轉電

十月五日午後四時四十五分發同五時三十五分著

大海機密第百號

Deck Is. Porini J. Swanage. Jaluit 各島ニ牙備
隊員約四十名ヲ容ルヘキ家屋徹發升レ得ルヤ

0047

軍令部長ヨリ香取艦長宛電報 轉電

十月五日午後四時五十分發 同五時四十分著

大海機密第百號

十月五日 Japan 二号備隊員約半名ヲ害ルルキ蒙屋
徴發サレ得ルヤ

軍令部長ヨリ山屋司令官宛電報 轉電

十月五日午後五時發 同五時早方著

百十八號 山梨電

Australia, Montcalm Sydney; 三日 Encounter 駆逐
艦二隻運送船隊ニヨリ「三六」發 Fiji Is. Suva 向

山屋司令官ヨリ人事局長宛電報 轉電 十月五日午後五十分著

0048

本隊各船ニ缺員並其ノ際増加オレシク定員至急補
充セラレタシ又野口核関大佐臺岐大尉職名知
レシニ

軍部次長ヨリ山屋司令官宛電報 轉電 十月廿午後三時三十分着

大海核衆第丸八號

貴隊用給炭取丸ヲ臨時肥前附屬 *Coquimbalt* 止同行セシメラルルコトトナレリ

山屋司令官ヨリ軍部次長宛電報 轉電 十月廿午後七時十分着

七日横濱賀發ノ彼南丸 *South* 二向ケ到達香取

ト通信聯絡ヲ保ケ十五日迄ニ到着スル様命セラレ度
又同艇ニ出来得六守備隊並艦隊補缺員ヲ便乗

0049

セシメシクニ又舟備隊用トシテ若干ノ舟艇ヲ送ラルルハ

好都合ナリ

神奈川丸馬取丸ノ行先ハ進テ御知ラセズ

右寫ヲ海防部及彼南丸監督官ニ送付ス

香取ヨリ本館宛電報

本艦五日正午ノ位置、南島島、漂泊

十月三日午後十時十分著電（第一南遣枝隊第三回報告）ノ續

十月五日午後七時十分著 轉電

三日記事参照

十月四日午前二時十分著電（第一南遣枝隊第三回報告）ノ續

0050

十月五日午後九時十分著 轉電
十月一日記事参照

軍令部参謀ヨリ山屋司令官宛電報 轉電

十月五日午後五時十五分著 同日九時十五分著

大海機密第一〇一

此ノ際貴隊ニ測量班ヲ附属セシムル必要ナキヤ

海軍省副官ヨリ但會左ノ如シ

大正三年十月四日

海軍省副官

副官宛

南進板隊ヨリ本省及軍令部へ無線電信ハ貴隊ヨリ電報ニテ送信有之候處時時電報ヲ電話ニ

0051

于受授之ハ錯誤多クシテ電譯不可能場合不少
後來自今ハ電信ヲ送信相成極在取計有之度
右也會ス

金剛午前十時佐世係三向ヶ島發
駒橋第八第九號潜水艇午前八時三十分出港
雉午前九時出港 午後三時入港
高崎丸午前九時出港
第一艇後午後四時出港 四九時三十五分全部入港
小樽丸午後四時四十五分入港

工廠擬出大正三年自九月十日至九月三十日
至九月三十日 需品供給金類調書左ノ如シ
大正三年自九月十日至九月三十日 需品供給金類調書

0052

横濱賀茂海軍工廠需品庫

戦列部隊

予算内予算外 計 類 記事

區備品

平常用消耗品

平常用石炭

行動用石炭

行動用消耗品

計

非戦列部隊

分供給金額

區備品

平常用消耗品

一、二六二五〇	一、〇五五	三九六	二、〇八七	六、〇四七
八七	三ト	九〇	ト	ト
七、七九	二、七三	七、九	七、七	五、七
五、七七	ト	ト	ト	ト
五、七	ト	ト	ト	ト
四、八	ト	ト	ト	ト
二、二	ト	ト	ト	ト
九、八	ト	ト	ト	ト

六、八三〇

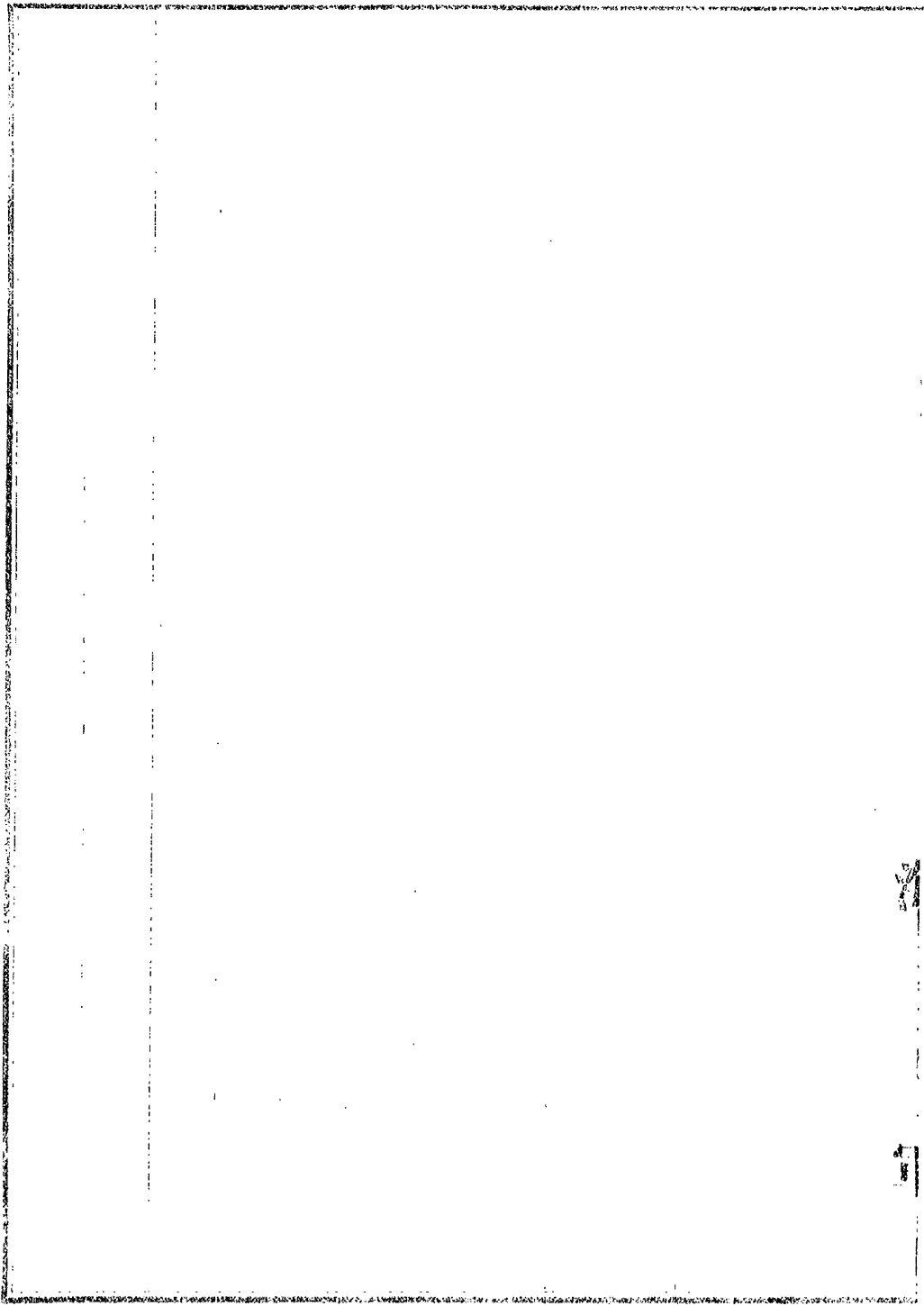
二、〇一七 七三五

事

平常用石炭	五九四	九七	四一	五	七	二
行勤用石炭	五〇七	五	一	三	七	二
行勤用消耗品	一五〇	四	三	六	五	〇
計	五九四	九七	四一	五	七	二
區分	八二四	二	六	七	二	〇
裁列部隊	四九七	二	三	二	四	一
非裁列部隊	四九二	二	三	七	六	〇
補給用	二七二	五	〇	三	七	〇
合計	五三八	九	五	九	八	七

大正三年 裁列部隊 供給金額 訖 事
 裁列部隊 供給金額 訖 事
 非裁列部隊 供給金額 訖 事
 補給用 供給金額 訖 事
 合計 供給金額 訖 事

0054



0055